

---

# 魔法少女リリカルなのは 黒い転生者

霊華@アカガミ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 黒い転生者

### 【Nコード】

N49010

### 【作者名】

霊華@アカガミ

### 【あらすじ】

神のミスにより死にチート能力を貰い「魔法少女リリカルなのは」の世界に転生した主人公。彼はこの世界でどのように動き原作に介入していくのか？

## なぜ知らないアニメの世界？（前書き）

懲りずに転生物を投稿です！

この作品の主人公はチートですが他の転生者とは少し違います

しかもオタクでもない

## なぜ知らないアニメの世界？

はじめまして先ほど死んでしまった池田雅人<sup>いけだ まさと</sup>っていう者だ

え？なぜ死んだって？それはね…

大学の講義の帰りにヒーローズを一期から見なおそうと思いTSU  
TAYAで借りようと向かったんだけど

途中で信号無視のフェラーリにはねられたからなんだよね……あんなに速度を上た車に跳ねられたら誰だって即死だよ！！

そんでさ此処は何処だい？外を見ると見渡す限り高層ビルばっかな  
んだけど？

もしか俺が居る部屋も高層ビルの一室かい？それと目の前に同年代  
かと思われるリーマンが土下座してんだけど……何なのかね？

「このたびは誠に申し訳ありませんでした」

はい？なぜ見知らぬ人に見事な職人技といっても過言ではない綺麗な土下座をされて謝罪されないといけないんだい？

「あのくなぜ謝っているんでしょうか？」

本当に謎だよ…

「……じ、実はこのたび貴方様が亡くなってしまった原因が僕にあるんです…本当にすみませんでした！」

は？何を言っただこのリーマンは？残業明けで頭でも逝ってるのか？

「どういうこと？説明してくれます？」

「は、はい。実は僕は貴方達がというような神でして」

再び…は？神？本当に頭は大丈夫か？

「それで下界に住む全生物の生死を管理しているのですが……残業で疲れているところで僕が間違えて貴方の寿命等を記したファイルを消去してしまい…」

……まさかと思いますが…

「あと76年は生きるはずの貴方が死んでしまいました…」

やっぱりかい！！冗談だよね！？冗談だと言ってくれないか！！！！

っ！か生物の命がPCのデータファイルなんかで管理するなよっ！！

ん？！てことは…

「本当に神？」

「先ほども言いましたが本当に僕は神です……まあ末端の平神ですけどね…」

えー！神ってデスクワークしながら生命を管理してんの！？しかも平って本当にリーマンみたいだな…何か哀れみを感じる…

「あのですね貴方の今後の対応なんです…」

は！そっだよどうなんだよ俺！！

「俺ってどうなんのさ?！」

「それはですね、こういったトラブルの対応マニュアルがありました。貴方はマニュアル通りに輪廻を無視し此方で用意した世界に転生させてもらいます」

「マニュアル? 転生?」

「マニュアルがあるってことはもしかして俺みたいにミスで死んだ人間が多数いるのか?」

「一応死んだわけだから転生っていうのは良いとして輪廻を無視していいのか?」

「輪廻を無視して転生していいんでしょうか?」

「ああ、大丈夫ですよ? 貴方が転生するのは貴方が生きてきた世界ではなく此方が管理している別のせかいですから」

「別の世界? 平行世界みたいな物ですか?」

「ちょっと違いますね。別の世界っていうのは貴方の生きてきた世界に存在する漫画やドラマの世界です」

「漫画やドラマの世界!？」

「そうです世界は「もしかしたら」等の考えのように無限に存在しているんですよ」

そ、そうだったのか!?! ってことは作品の数だけ夢の世界が幾つもあるってことか!？

「それですねマニュアルにそって幾つかの能力等を貴方に与えます」

「能力？」

もしか生まれつきの才能とかだろうか？

「簡単に説明すれば漫画等に登場するキャラの力や能力のことです」

ななななな、なんだってえええええええ!!!!？

「本当ですか!?!」



「ええ本当ですよ。あとは容姿とかも決められます」

そ、それは凄いね！

「じゃあ、容姿はデユラララの折原臨也でお願いします」

あの小説好きなんだよねーほとんどのキャラが歪んでいて面白い！  
アニメは数話しかみてないけど…

「はいわかりました。お次は能力ですが三つまで好きなものを選びます」

なんかメモし始めた？てか三つも！あ、でも

「これから俺が転生する世界ってどんな世界ですか？」

戦いとかが無い世界に行って戦闘の能力貰っても意味ないし

「えーとですね少々お待ちを」

あの世ってIT社会なのか？持っていたノートPCで調べ始めたよ

「はい分かりました「魔法少女リリカルなのは」の世界ですね」

「……………」

「？どこかしましたか？」

どうかしましたもこうしたも……名前ぐらいしか知らないアニメじゃないか！！

「…名前以外まったく知らないんですけど」

「へ？…ええええええええええ！！」

そんなに驚くことですか？！

「オタクなら誰でも知っているアニメを…それでもオタクですか貴方！！！」

あれ？何か知らないけど逆ギレされてる！

「オタクって……俺は漫画と文庫小説が好きなだけだ！ アニメなんか一般的に有名なやつぐらいしかほとんど見たこと無いよ！！」

ドラゴンボールとかワンピースとか！

「な、なんと……それでしらがうがないので原作知識を与えましよう」

そう言い神リーマンは再びキーボードを叩き始め……………ん？何か頭に変な情報がああああああああああああ  
ああ！！！！？？？？？

あ、頭が割れる！爆発すうううううううううううう！！！！？？？！？

「や…やっ　と治まった…ん？　ううん？」

なんか白い少女とかがビームとかを射ちはなっ  
て戦う姿が頭の中に！

「どうやらちゃんと情報がインストールされたようですね。それで改めて三つの能力を」

おいインストールってなにさ！俺はPCかなにかか！！

はあ…えーと能力ねえ。情報によると魔法で戦う話みたいなんだよね…ふむ

「じゃあ身体能力は常人の1・5倍で他のステータスは魔力を含めてEXで」

「他はちートなのに身体能力だけそんななんですか？」

チートって…

「身体能力だけは常人より少しだけ動けばいいんですよ。そのほうが化け物染みなくていいし」

「そういうものですかね？それじゃあ残りの二つもお願いします」

「え？さっきので二つのお願いだったんですけど？」

「ステータスの枠で括りましたので残り二つです」

おお！意外なところでサ・ビスが！

「そんじゃ全ての能力を代償とか無しで使える能力をください」

「は？なんちゅうチートな能力を……まあ良いでしょう」

やった！言ってみる「ただし！！」へ？

「これは二つ分になります」

「あー別に良いですよダメもとでしたし」

「そうですか（どうしよう下手したら僕の給料が！！）それでは最後に転生し0歳から始めるのかこのままの年齢で転生するか決めてください」

そんなことも決められるの？

このままの年齢で転生って転生といえるのかが謎だが…

「じゃあ今の年齢で」

「貴方……ロリコンですか？」

「違う！！断じて違う！！」

俺の好みは年上の大人のお姉さんだ！！

「……よしこれで準備完了！」

無視！無視ですか！！

「それでは第二の人生を楽しんでくださいね（カチャ）」

「へ？……ぎゃあああああああああああああああ  
あ！！！！？？」

何だこれ！何だよこいつは！？

急に床に穴が開いてブルーメランパンツを穿いた黒光りなマツチヨが俺の両足首を掴んで引き込みはじめ……その途中で俺の意識が……

……

> b r < > b r < > b r < > b r < > b r < > b r <

> b r < > b r < > b r < > b r <

> b r < > b r <

S i d e - 平の神 -

「一応…マニュアル通りに転生させたけど……」

あの能力は流石にサービスしすぎたなあ

まあ僕のミスが悪いんだけど……何ヶ月分かの給料があ（泣）

僕は末端の平神だから降格はこれ以上は無いけど下手したら謹慎どころかクビですよ！クビ！

ああ……負い目を感じずに簡単な能力だけに限定すればよかった…

……

はあ……明後日あたりに僕の処分が通達されるんだろうけどクビはいやだなあ…

頑張って入社したのに……

入社数ヶ月でクビはイヤだよお

ただの一般魂に戻りたくないよ（泣）

はあ……こんなことなら運とかを管理する天使の会社に就職すればよかった……

[illegible]

彼に彼以外の転生者が居るって伝えるの忘れてた！！

……まあいつか！

これで彼に念話で伝えたら上に知られて更に処分が重くなるしね

さてと、今日も今日とて残業をがんばりますかー！



でも残業代は今回の事で無しだうなあ

はあ……………

> b r < > b r < > b r < > b r < > b r <

> b r < > b r <

## なぜ知らないアニメの世界？（後書き）

他の転生物と被らないようにしてみたんですがいかがでしょうか？

な、なぜ池袋に行けないんだ!! (前書き)

早くも更新!

なんでしょうね

何で私が二次小説を書くところもひねくれたら作品になるんでしょうかね…

な、なぜ池袋に行けないんだ!!

「ハっ!!」

こゝここは何処?あのブーメランパンツを穿いた黒光りなマッチョは!?

あのマッチョは普通に恐かった……

で……………本当に此処は何処だ?

本当にアニメの世界に来たのか?

周囲を確認する……………見慣れない場所だ……  
おそらくは公園

服装を確認する……………折原臨也と同じ服装だ……ポケットにはナイフは入っていない

これで容姿だけ転生?前の自分だったらただのコスプレ野郎だ……

自分の顔を確認した……あ、公衆便所を発見！

発見した公衆便所に駆け込み鏡で自分の顔を確認

「ほ、本当に折原臨也になっている…」

確認した自分の顔は本当にデユラララのウザ也こと折原臨也になっていた

でも声が違うような……この声ってコードギアスっていうアニメの主人公の声だったような？

「まあいいか…」

外に出ると幼女がベンチで泣いており少年が話しかけていた

確かあれって主人公の女の子だよね？

神リーマンによって無理矢理に頭に植え付けられた原作知識による  
とあの少年は存在しないはず……

もしかして俺が来たせいで原作が変わった？

「ふむ…確認してみるか」

あの神リーマンが本当に俺が望んだ能力を与えてくれたなら使えるはず

「検索開始……」

そう仮面ライダーWの「星の本棚」だ

アニメは見てなかったけど特撮は小さいときから好きだったから見  
てたんだよね

さてキーワードだけど何を入力すればいい？

「ん」 「高町なのは」 「少年」 「公園」 「出会い」 …… どうだ？」

…… よし！絞れた！

よくあんなキーワードで一冊に絞れたな…

えーと何々……

名前は鳴海歩<sup>なるみあゆむ</sup>で転生者か

……… は？

転生者だと！！俺以外にも居たの！

あのリーマンめ言つとけよ！変に動揺してしまったじゃないか…

はあ……………気をとりなおして続きを…

ふむふむ成る程

あの少年は前世は27歳の引きこもりのオタクで神のミスで心臓麻痺により人知れずに死んでしまった

そしてミスをした神により大好きだった「魔法少女リリカルなのは」の世界に容姿を漫画スパイラルの主人公にしてもらい幾つかの能力を貰い翠屋近くの一般家庭に転生

貰った能力は「魔力SSS+」「アルファ・ステイグマ」「超直感」

これからの主な目的はメインとサブを含めた全女性キャラと出会いフラグを立てまくってハーレムの設立

なんだろうね俺と同じように神のミスでしんだはずなのに彼には親近感も感じないし同情もできない

しかも貰った能力がこの「魔法少女リリカルなのは」の世界じゃかなりの力を発揮しそうな物ばかりだ

魔力と力を上手く使えばこの世界じゃ最強になれるかもしれない

もし「これで俺は最強だ!!」とか思っていたらウザいなあ

そもそもこの目的も酷いね俺には理解できない思考だよ

鳴海歩の容姿を手に入れイケメンになってモテモテになったなどと勘違いしているんじゃないだろうか？

イケメンになっても性格とかを何とかしないとモテるのもモテないっていうのに

情報によるとほとんどのキャラが勘が鋭いようだからちょっとしたミスで全が台無しになると思うし

その瞬間だけを見るだけに彼を監視……………いや止めておこう

さて俺は俺で動きますか

目的地はそう池袋だ!!

せっかく折原臨也になれたんだから池袋に行かないでどつする！

え？原作介入？変態転生者の討伐？



そんなことめんどくさいからやらないよ

この世界には興味無いし好きに生かせてもらう

> b r < > b r < > b r < > b r < > b r < > b r <

………どういうことだい？

池袋に行こうと思いき海鳴市を出ようとすると身体が拒絶反応を起こしたように海鳴市から出たくなる

海鳴市の境界線付近に近づくと頭の中に「出たくなる」って思考がよぎる

でも境界線付近から離れると其の思考が消えて元に戻る…

これはいったいどういうことか？

まさかとは思うけど無理矢理にでも原作に介入するように海鳴市に閉じ込められた？

もしそうだとしたら嫌だねえ

余計な設定をしてくれたもんだね糞リーマン！

うん、実験の結果……完璧に閉じ込められたようだ

徒歩がダメなら他の移動手段を試したけどどれも海鳴市から出ることができなかった

自転車、バイク、車、バス、電車、飛行、転移移動……全てが無駄に終わった

はあ、まさかバスや電車に乗ることすらできないとは……参ったねこれは

これで原作が開始しても海鳴から出れなかったらどうしよう……

とりあえず今日は適当にホテルにとまりますか

え？金はどうするって？

アフターサービスが何か知らないけど財布の中に5万円も入ってたよ  
だからバスや電車に乗ろうとしたんだよね

> b r < > b r < > b r < > b r <

ああ、これからどうしよう……

> b r < > b r < > b r < > b r <

な、なぜ池袋に行けないんだ！！（後書き）

主人公の転生後の名前ですが数話後に話の中で発表します

たいした名前じゃないんですけどww

原作介入？なにそれおいしいの？（前書き）

なんかリリカル批判な感じが（汗）

原作介入？なにそれおいしいの？

あれから5年たちました

いやー時がたつのって早いねえ

この5年間は結局さ海鳴市から出れなかったかので拠点を海鳴市に作りました

鋼の錬金術師の能力で金を作りまくり裏の換金所で現金にして高層ビルの一フロアを買い取って事務所兼自宅にしたのさ

まさかこんな町に裏の換金所があるとは思ひもしなかったからけっこう助かったよ

何で俺が裏の換金所とか危ない所を知っているのは町の不良を掴まえて……………平和的交渉でイロイロ教えて貰ったんだよね

最終的に暴力団の事務所の怖いお兄さん達に教えてもらうことになって多少ビビりはしたけど……………能力が無かったら今頃……………有難う神リーマン

あと、そのお兄さん達に戸籍の偽造書等を作ってもらえる特殊なお店も教えてもらって身分証とかも作りました

今じゃお兄さん達とはイイお友達

おかげで裏ではちよつと有名な情報屋になれましたよ

これで池袋に拠点を作れるならリアル臨也になれるけど

情報の収得とかは能力を行使しハッキングとかして簡単に情報が手に入るしウイルスとかも使って勝手に貯まる貯まる

それに一応作ったデバイスを使って現在地球に滞在している現役と元管理局員からデータを盗んで本局と地上本部にアクセスできるようになった

原作知識と照らし合わせて黒い部分もバッチリ把握した

あとはこれ等を使ってどう遊ぶかなんだよね

今のところ管理局に手っ取り早く接触するなら次元震を感知してジ

ユエルシードを回収に来るアースラが丁度いいカモなんだけど

あの艦に接触するってことは原作に介入するってことになる……

原作介入なんてもう一人の転生者の変態くんに適当にやらせとけばいいし

アースラの艦長であるリンディ・ハラウオンに接触し交渉を持ちかけ管理局の不正等の証拠データを渡せば彼女を丁度いい駒の一つにできるのに……

>br<>br<

しかしアレだね、原作が実際に始まると本当にアニメの世界に来てしまったんだと実感えきるね

夢の中で念話で『助けて』って助けを求められたときは多少驚いたよ

変態くんはあの娘が原作通りに動くように何もしなかったけど俺は動いた……だけど何もできなかった

あの娘が魔法に関わらなければ上手い具合にアースラに接触できる  
と思いユーノとかいうフェレットを殺してデバイスを奪おうとした…



世界意思とかいうのかな？フェレットの場所に向かおうとしたら激しい頭痛と吐き気に襲われて動けなかった…… どんだけ俺に原作介  
入させたいのかねえこの世界は

でもまあ良くやるね彼女は、本当に小学3年の少女とは思えないなあ

「そう思わないかい朱？」

《……………》

「あははは、答えようにも君には無理か」

だって俺が自分でそういう風にAIを組んだんだから

彼女「朱」は俺が原作知識を基に能力を使って自作したアームズデ  
バイス

……管理局のデータを盗めるようになってようやく使い物になった  
んだけど（苦笑）

普通はAIに感情に近いものを組み込むんだけどそうしなかった

サポートと演算能力だけ有れば十分だしね

>br<

そんで今現在ね外を見るとこの事務所が入っているビルを含めた町の一定範囲が巨大な樹の根に覆われている

そうジュエルシードの暴走だ。結界で住人からは認識できないようにしているけど対応が遅い

死者は居ないとしてもかなりの人間が犠牲になっているよ……まあ若干9歳とは思えない精神と行動力だけだしよせんは子供か

でも無駄に頑張りすぎじゃないかな？彼女といいもう一人の娘の方も…

だって俺がアニメじゃかたられなかった

「ジュエルシード二つを手中に納めているんだから」

念には念ってところかな（笑）

手札は多ければそれだけで有利に交渉を運べることができるしね

>br<>br<>br<>br<>br<>br<>br<

## Side - 歩 -

ふう今回は原作を知っているとはいえヒヤヒヤしたぜ

一部とはいえ町が木で覆われちまうんだもん

まあ、ちゃんとなのはとユーノがジュエルシードを封印して収まったけど

しかし何で俺に助けを求めてくれなかったのかね？

今まで計画通りに助けてきてそれなりの好意は得られているはずなのに……何でだ？

「もしかして好きな俺を巻き込みたくないとか？それだったら領け

る」

《ただ単にマスターが変態だと感じているからかもしれませんよ？》

「そんなわけあるかつ!!」

たくつこのこのデバイスはこつも主の揚げ足を取るかなあ？

あの糞神の爺め！俺が本当に欲しかったチート能力をくれなかった  
うえに性格の悪いデバイスを超越しやがって!？

第一、俺が前世から考えて考え抜いたハーレム計画がバレる分けがないだろつつの!!

つーか俺は変態じゃない変態紳士だ!!

《結局のところ変態じゃないですか》

勝手に人の心を読むなよ！

《読んでなんかいませんよ、頭は大丈夫ですかあ》

読んでるじゃねーかよっ！だめだこのデバイス早くなんとかしない  
と…

> b r < > b r < > b r < > b r < > b r < > b r <

S i d e - 神 -

ふむ…やはり手違いで殺してしまったとはいえ彼を転生させたのは  
間違いじゃったかな？

一応は好意で三つまで増やしてやった能力を使っているようじゃが  
……

あー何であんな変態のオタクを手違いで殺してしまったんじゃろ…

それなりに歪んでいるが平行世界の別の天界から転生してきた彼を  
見習ってもらいたいわ

これが切っ掛けでワシの地位が落ちたらどうでしょう……

> b r ^ > b r ^ > b r ^ > b r ^ > b r ^

> b r ^ > b r ^ > b r ^ > b r ^ > b r ^ > b r ^ > b r ^ > b r ^

原作介入？なにそれおいしいの？（後書き）

まだ主人公の転生後の名前が…

原作進むの早くね？（前書き）

うーん、リリカル関係ない感じが（汗）



原作進むの早くね？

ふむ、こまった

早くも次元震がおきてしまったよ

うーむどうしようか？

俺が望むストーリーを描くにはリンディ女史とコンタクトをとらないといけない

だけど主人公たちとは関わりたくない……

姿を能力で変えて原作介入っていう手も考えたけどさあ

後々正体がバレたときの説明とかしよーじきめんどくさい

盤上の駒を動かすならできるだけ表に出ずに影で動かしたいし……  
ん？

やれやれ、人が考え事をしているというのに余計な客がきたようだ

>br<>br<>br<>br<  
>br<

S i d e - 歩 -

将来の嫁二人が戦って次元震がおきた

アースラ御一行が海鳴に来る

つまりはKY君のフルボッコフラグだ!!

グフフフ、徹底的に潰してエイミィとの結婚を無くしてやる

しかしさあしかしだよ？

なのはがまた俺を頼ってくれなかった…

……………モギユモギユ……………なんでだろう？

……………モグモグ……………ゴックンツ……………フェイトはフェイトで話しかけたら顔を背けて無視するし…

うゝん……………そうかつ!？

なのははいつも同様に大好きな俺をまきこみたくない!

それでフェイトは俺がカッコよく過ぎて目を会わせるのが恥ずかしく赤くなつた顔を隠すために顔を背けているんだな！？  
な〜んだ、だつたら納得だね

これもオリ主の宿命つてやつかな？まいったねこりゃあ（笑）

「あ、すみませーん。シュークリームもう一つくださーい」

ふう、やっぱり翠屋のシュークリームは最高！

でも何で俺の注文だけは土郎さんが絶対に担当するんだろ？

《（ダメだこの変態バカ主！早く何とかしないとー！）》

>br<>br<>br<>br<>br<

Side - 本当のオリ主 -

「ぐ……………本当に貴様は人間……………なの…のか？」

「んー？……………さあどうかな」

招かれざるお客様たちは俺が以前に情報をリークされた組織の人間達だった

情報屋をやりはじめたころは能力の確認ができて助かっていたけど慣れたとはいえ一気に30人近くの人数で襲撃されるとめんどくさいまあ、暇つぶしの遊び道具には丁度いいか

「しかし、キミはしぶといねえ」

一緒に来た他の人たちは空間系能力で簡単に死んじやつたし

「……………ぐ……………あが……………はが……………」

最後の生き残りのリーダー各らしい男

彼は壁にへばりつけられ……………

「早くさあ死んでくれないと本が読み終わっちゃうんだけど?」

シュッ

「がつ?!……ふざ……け」

シュッ

「っ?!」

ナイフの的当ての的になっている

うーん、今ので何本目はナイフだ?

本を読みながら空いてる右手でナイフを創造して投げて当てている  
んだけど

本を読みながら的を見ないで当ててるから数を数えてなかったよア  
ハハハ

確認する為に彼を見る

「あちゃーさっきので逝っちゃったか」

身体全体にまんべんなくナイフが刺さっており、さっきのナイフが額に刺ささりトドメになっただけ

しかし、こんなに刺さってんのによく死ななかったねえ

普通だったら激痛に耐えきれなくショック死するのに

彼が死ぬまでの時間を考え本を選んで暇つぶしに読んでたけど

適当に計算したのにギリギリ読み終わるまで耐えちゃったよ凄いね

さて、床に転がる死体も処理しないとね

「モシモシ？あ、そうそうまた頼めるかい？そう助かるよ。それじゃあいつもの口座に振り込んどくから」

死体の処理は専門家に任せるのが一番ってね

アースラのこととは到着するまで保留ってことでシャワー浴びて今日は寝よ

リーダー各以外の人の返り血で血だらけになっちゃったからね



原作進むの早くね？（後書き）

執筆を急いで、すげーやっつけ仕事なきがする（汗）

後半の主人公Sideが全然リリカルなのはと関係ないし（汗）



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4901o/>

---

魔法少女リリカルなのは 黒い転生者

2011年2月12日02時17分発行